

物語の中の大事な言葉や文を書き抜き、自分の考えをまとめる力を育てる国語科学習指導の工夫 — 「思考マップ」を組み合わせて物語を読む学習活動を通して —

尾道市立高須小学校 梶田 典子

研究の要約

本研究は、物語の中の大事な言葉や文を書き抜き、自分の考えをまとめる力を育てる国語科学習指導の工夫について考察したものである。文献研究から、物語の中の大事な言葉や文を書き抜き、自分の考えをまとめる力を、場面や登場人物を把握する上で大事になる言葉や文、物語を読んで感じたことの根拠となる言葉や文を書き抜き、読む目的に応じた大事な言葉や文は何か考えたり、把握した内容に対する自分の考えを明確にしたりしてまとめる力とした。この力を育てるために、物語を把握するための「思考マップ」と自分の考えをまとめるための「思考マップ」を組み合わせて物語を読む学習活動を行った。その結果、目的に応じた大事な言葉や文を見付け、根拠とともに自分の考えをまとめる力が向上した。「思考マップ」を組み合わせて物語を読む学習活動を取り入れることは、物語の中の大事な言葉や文を書き抜き、自分の考えをまとめる力を育てることに有効であった。

キーワード：思考マップ 組み合わせる 書き抜く力

I 研究題目設定の理由

小学校第4学年までの学習内容の定着を調査する平成25年度広島県「基礎・基本」定着状況調査の、登場人物の気持ちやその変化を問う記述式問題の通過率は52.2%と低い。さらに、解答の出現率を見ると、物語の展開を捉えて文章全体から気持ちを想像できている児童は4.2%にとどまっており、複数の叙述を関連させて想像することができていない。このことから、本県児童の「読むこと」の課題の一つは、登場人物の気持ちやその変化を複数の叙述を基に想像して読み、自分の考えをまとめることであると考える。

この課題の解決に向けて、先行研究では、第3学年及び第4学年の「読むこと」の指導の工夫について、全体を俯瞰して読ませる、場面を比較して読ませる等の指導の効果が明らかにされている。しかし、登場人物の気持ちを想像して自分の考えをまとめることができない児童の中には、根拠となる叙述を自力で見付けることができない児童があり、その児童への指導の手立てが課題として挙げられている⁽¹⁾。登場人物の気持ちやその変化を複数の叙述を基に想像して読むためには、まず、根拠となる叙述を自力で見付けることができる力を付ける必要がある。根拠となる叙述を自力で見付けることについて、小学校学習指導要領解説国語編（平成20年、以下「解

説」とする。）の、第1学年及び第2学年の内容「C読むこと」の指導事項の解説には「低学年では、エとして、自分の考えをまとめるために、『文章中の大事な言葉や文を書き抜くこと』を示している。」⁽¹⁾とある。まず第1学年及び第2学年で「C読むこと」の指導事項エの指導の改善を図り、先行研究で指摘された課題を解決することが、第3学年及び第4学年の「C読むこと」の指導事項ウの指導の改善を図ることにつながっていくと考える。

そこで本研究では、第2学年の物語を読むことの指導において、「場面の読みマップ」「登場人物読みマップ」によって物語の全体を捉えさせ、「自分の読みマップ」によって大事な言葉や文を書き抜き、自分の考えをまとめさせる。これらの「思考マップ」を組み合わせて物語を読む学習活動によって、物語の中の大事な言葉や文を書き抜き、自分の考えをまとめの力を育てることができると考え、本研究題目を設定した。

II 研究の基本的な考え方

1 物語の中の大事な言葉や文を書き抜き、自分の考えをまとめる力とは

(1) 物語の中の大事な言葉や文を書き抜くとは
物語の中の大事な言葉や文を書き抜くことについ

て、「解説」では、「時間や事柄の順序、場面の様子や登場人物の行動、文章の要点やあらすじなどにかかわって文章の中で大事になる言葉や文、読み手が自分の思いや考えをもつことに強く影響した言葉や文などを、適切に書き抜くということである。」²⁾と示されている。この「時間や事柄の順序、場面の様子や登場人物の行動、文章の要点やあらすじなどにかかわって、文章の中で大事になる言葉や文」によって場面や登場人物を把握することができる。そして、「読み手が自分の思いや考えをもつことに強く影響した言葉や文、思いや考えを話したり書いたりするために必要となる言葉や文」が物語を読んで感じたことの根拠となる。

田近洵一(1993)は、物語を読むことについて「〈読み〉はあくまでことば（表現）をおさえ、作品に即したものでなければならない。作品のことばを媒材として、読み手の内部にリズムやイメージ、あるいは一つの思想が生まれる。それが読むということである。」³⁾と述べている。物語を読むことについて「作品に即した読み」「読み手の内部に生まれる読み」の二つの読みの姿があることを読者論を踏まえて示したものである。この二つの読みの姿は、小学校学習指導要領の「文学的な文章の解釈に関する指導事項」「自分の考え方の形成及び交流に関する指導事項」とつながっている。

水戸部修治(2012)は「文章の中の大事な言葉には2つの側面がある」⁴⁾と述べ、この二つの側面を「書き手が伝えたい大事なこと」と「読み手である自分が着目したい大事なこと」と示している。この指摘は、文章全般を読むことにおける大事な言葉や文についてのものである。

指導事項と田近、水戸部の指摘から、物語の読みの在り方によって、物語を読む時の大事な言葉や文が変わることがわかる。文学的な文章の解釈につながる「作品に即した読み」を行う場合に大事な言葉や文は「書き手が伝えたい大事な言葉や文」であり、自分の考え方の形成につながる「読み手の内部に生まれる読み」を行う場合に大事な言葉や文が「読み手である自分が着目したい大事な言葉や文」である。

これらのこと踏まえ、本研究における物語の中の大事な言葉や文を書き抜くことを、場面や登場人物を把握する上で大事になる言葉や文、物語を読んで感じたことの根拠となる言葉や文を書き抜くこととする。

(2) 自分の考え方をまとめると

自分の考え方をまとめることについて、「解説」に

は「自分の考えをまとめるために、文章に書かれている『大事な言葉や文を書き抜くこと』」⁵⁾と示されている。大事な言葉や文を書き抜くことが、自分の考え方をまとめための手段であることが分かる。このことから、大事な言葉や文を書き抜く学習活動は、自分の考え方をまとめた学習活動を組み合わせて行わせることが必要だと考える。

水戸部(2013)は、自分の考え方をまとめることについて「自分の課題や関心などに応じて、どの本や資料を選び、どのページを読むのかを自ら判断したり、読む目的に応じてどの言葉や文が重要なのかを考えたりする、より主体的なものとしてとらえるべきだろう。また、何が書かれているかを把握するのみならず、それに対して自分はどう考えるのかを明確にすることももちろん重要になる。」⁶⁾と述べている。単純に読んだ印象をまとめのではなく、目的に応じて大事な言葉や文が何かを吟味し、大事な言葉や文を書き抜いた上で内容を把握し、それについて自分の考え方を明確にすることが必要だと指摘しているのである。

以上のことから「自分の考え方をまとめると」とは、読む目的に応じた大事な言葉や文は何かを考えたり、把握した内容に対する自分の考え方を明確にしたりしてまとめることとする。

(3) 本研究における物語の中の大事な言葉や文を書き抜き、自分の考え方をまとめの力とは

(1) (2) の内容を踏まえ、本研究における物語の中の大事な言葉や文を書き抜き、自分の考え方をまとめの力を、場面や登場人物を把握する上で大事になる言葉や文、物語を読んで感じたことの根拠となる言葉や文を書き抜き、読む目的に応じた大事な言葉や文は何かを考えたり、把握した内容に対する自分の考え方を明確にしたりしてまとめの力とする。

2 「思考マップ」を組み合わせて、物語を読む学習活動について

(1) 「思考マップ」とは

「思考マップ」とは、物語を読む際の思考を視覚化したものである。頭の中で行われている「考える」という作業を具体化し、どんな言葉や文を使い、組み合わせて思考したのかを視覚化するものである。

先行研究では、思考するための技術を思考スキルとし、小学校の学習段階で必要な思考スキルを定義している。そして、その思考スキルを使わせて授業のねらいを達成するために必要な「シンキングツール」の活用とその効果が明らかにされている。本研

究では、先行研究の成果を踏まえ、低学年の「読むこと」の学習において「シンキングツール」の一種として「場面の読みマップ」「登場人物読みマップ」「自分の読みマップ」を開発し活用する。「場面の読みマップ」「登場人物読みマップ」は「場面や登場人物を把握する上で大事になる言葉や文」を書き抜いて、物語の展開を把握するために用いる。「場面の読みマップ」は、場面の様子が分かる言葉や文を書き抜いた上で、場の比較・関連付けをしながら物語の展開を把握できるように、ベン図の形式を取り入れて作成したものである。「登場人物読みマップ」は、登場人物の行動が分かる言葉や文を書き抜き、登場人物の性格や相互の関係を想像させるために、イメージマップの形式を取り入れて作成したものである。「自分の読みマップ」は場面や登場人物について二つの「思考マップ」で把握してきたことを関連させながら「物語を読んで感じたことの根拠となる言葉や文」を書き抜き、自分の考えをまとめるためにクラゲチャートの形式を取り入れて作成したものである。これらのシートをまとめて「思考マップ」とする。

(2) 「思考マップ」を組み合わせて物語を読むとは

「解説」には、「物語を読むことについて、「場面の展開に即して各場面の様子が変化したり、中心となる登場人物の行動が変化したりしていくことを把握した上で、その様子を豊かに想像しながら読むことを意味している。」⁷⁾と示されている。このことから、物語を読むためには、場面の様子と登場人物の行動の双方を結び付け、物語の展開を把握することが必要であることが分かる。そこで、「場面の読みマップ」「登場人物読みマップ」を組み合わせて場面や登場人物を把握する上で大事になる言葉や文を書き抜かせ、物語の展開を把握させる。場面、登場人物に分けて読みマップを作成することで、読みを焦点化することができる。また、それらを組み合わせることで、物語全体を捉えることができる。続いて「自分の読みマップ」に、物語を読んで感じたことの根拠となる言葉や文を書き抜き、自分の考えをまとめさせる。「思考マップ」を組み合わせることで、自分の考えがどの場面やどの言葉や文から生まれたのか捉えやすくなり、自分の考えの根拠を明確にして自分の考えをまとめることができる。

以上のことを踏まえ、本研究では、「思考マップ」を組み合わせて、物語を読む学習活動を、「場面の読みマップ」「登場人物読みマップ」「自分の読み

マップ」を組み合わせて、物語の展開を把握させ、自分の考えをまとめる学習活動とする。

3 「思考マップ」を組み合わせた学習の展開

(1) 「場面の読みマップ」と「登場人物読みマップ」を使って読むことについて

場面の様子を捉える「場面の読みマップ」(図1)、登場人物の行動を把握する「登場人物読みマップ」(図2)を作成する学習活動において、児童はまず、示された視点に基づいて物語の叙述を分析し、場面や登場人物を把握する上で大事になる言葉や文を書き抜く。場面の様子や登場人物の行動を把握する視点については、先行研究を踏まえて設定し、表1に示す。次に、書き抜いた場面の様子がわかる言葉や文を比較・関連付けして物語の場面の様子や登場人物の行動を把握する。さらに、把握した登場人物の行動から登場人物の性格や登場人物の関係を想像する。この学習活動では、書き抜いた言葉や文と自分の考えや感想を区別してまとめておく。

表1 場面の様子や登場人物の行動を把握する視点

場面の読みマップ	登場人物読みマップ
時間 場所	中心登場人物と対登場人物
問題状況	性格
情景	行動
様子の変化	会話
事件の展開、解決	心情の変化

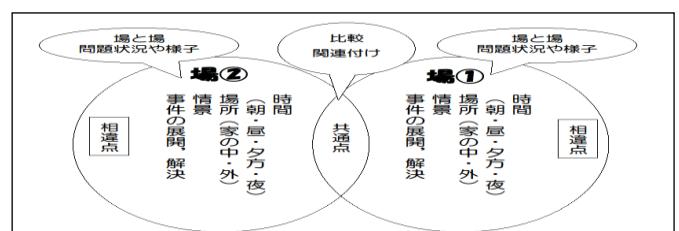


図1 思考マップ①「場面の読みマップ」

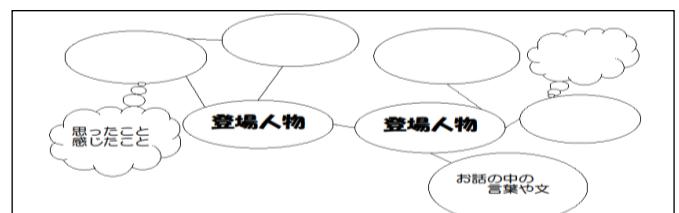


図2 思考マップ②「登場人物読みマップ」

(2) 「自分の読みマップ」を使って読むことについて

物語についての自分の考えをまとめる「自分の読みマップ」(図3)を作成する学習活動において、

児童は、自分の考えとして、物語の中で自分が好きなところや心が動いたことについてまとめる。その際、自分の考えに強く影響した言葉や文、すなわち、自分の考えを書いたり話したりして伝えるために必要となる言葉や文を選んで書き抜く。水戸部(2011)は「好きなところを見付けるためには、登場人物の行動や、時間的な順序、事柄の順序などを考えながら読んだり、自分が好きなところを紹介する上で大事な言葉や文を書き抜いたりする必要がある。」⁸⁾と述べている。場面や登場人物について読み取ってきたことを関連させながら、自分の考えをまとめていくことができるよう、それぞれのマップを活用していく。

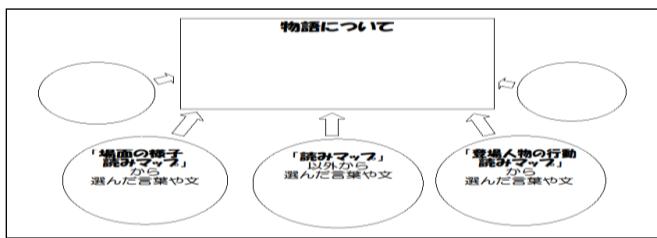


図3 思考マップ③「自分の読みマップ」

(3) 低学年段階の物語を読む際に活用する思考スキルについて

児童にとって、「思考マップ」で言葉や文を関連付けたり、そこから自分の考えを導き出したりすることは難しい。そこで、頭の中で行われる思考を具体的に分類して児童に提示する。本研究では、関西大学初等部や角屋重樹(2013)の実践を参考に、六つの思考スキルに整理し(表2)，提示する。また、その思考スキルを使うためのツールも開発する。

表2 六つの思考スキル

思考スキル	定義	文学的な文章を読むことにおいて(低学年)
比較する(くらべる)	複数の事象の相違点や共通点を見付け出すこと	場面の比較 登場人物の行動の比較
分類する(まとめる)	物事をいくつかのまとまりに区分すること	場面に分ける 場の設定 登場人物の気持ち
多面的にみる(見方をかえる)	視点や立場を変えて見ること	他の登場人物の立場で考える 読み手として考える
関連付ける(つなげる)	既習事項や経験と事柄を結び付けること	前の場面と関連付ける 他の登場人物の行動と関連付ける 言葉と言葉を関連付ける
構造化する(組み立てる)	複数の事柄の関係を構成すること	それぞれの場面の様子、登場人物の行動から、物語の構造を捉える
意味付ける(つくり出す)	学んだことをまとめて意味を見付け出すこと	読み取ったことを基に、物語の好きな場面や感じたこと、考えたことをまとめ、自分の読みを意味付ける

(4) 「思考マップ」を使った思考の整理の工夫

それぞれの学習で自分が使った思考スキルを児童が明確にできるようにするために、毎時間の終わりに、自分の思考を振り返るための「思考の振り返りシート」(図4)を活用する。今日の学習で使った思考スキルに色を塗り、思考スキルを使って考えることができたということを実感させていく。

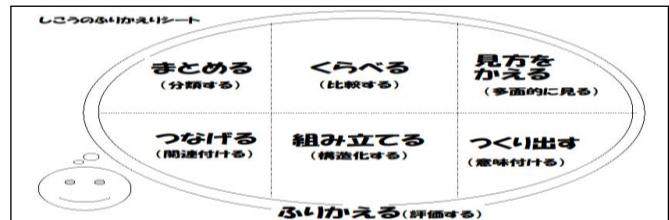


図4 「思考の振り返り」シート

(5) 「思考マップ」を組み合わせた単元について

付けていた力に応じた単元を貫く言語活動を設定し、「思考マップ」を組み合わせて物語を読む学習活動を取り入れた単元を構想し、図5に示す。

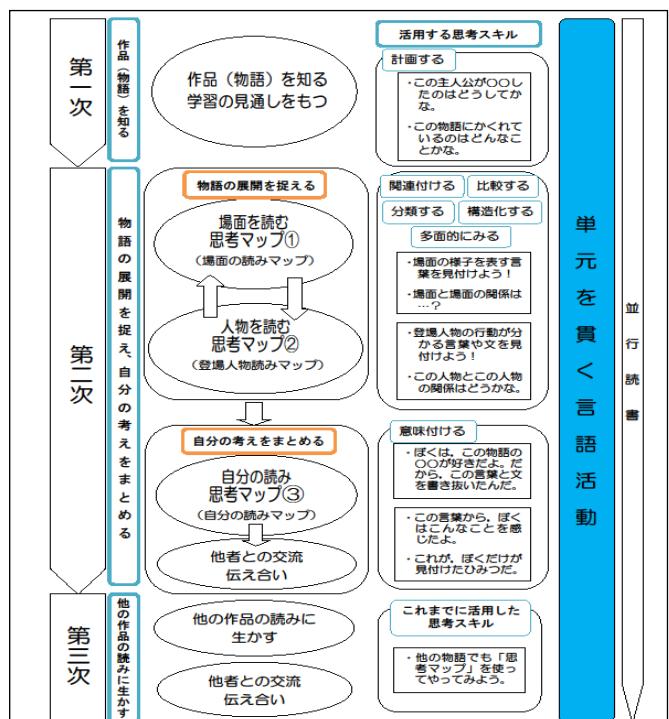


図5 単元構想図

第一次は「作品(物語)を知る」過程とする。第一次で、児童は作品を知り、感想をもったり疑問を抱いたりするとともに、単元を貫く言語活動を知り、単元の見通しをもつ。

第二次は「物語の展開を捉え、自分の考えをまとめる」過程とする。第二次で、児童は「思考マップ

①②」を用いて、場面や登場人物を把握する上で大事になる言葉や文を書き抜いた上で、場面の様子や登場人物の行動を読み取り、物語の展開を捉える。そして物語の展開を捉えた上で、「思考マップ③」を作成するために、「思考マップ①②」から物語を読んで感じたことの根拠となる言葉や文を書き抜き、自分の考えを整理し、まとめる。さらに、「思考マップ」に書き抜いていなかった言葉や文からも、関連するものを見付けて書き抜いていく。また、第三次に向けて、並行読書も行う。

第三次は「他の作品に生かす」過程とする。第三次で、第二次までの学習を生かし、単元のゴールに向けて「思考マップ①②③」を組み合わせて他の物語を読む学習活動を行う。

以上のような学習を通して、児童は、物語の中の大変な言葉や文を書き抜き、自分の考えをまとめる力を身に付けていくことができる。

III 研究の仮説及び検証の視点と方法

1 研究の仮説

文学的な文章を読むことの指導において、「思考マップ」を組み合わせて物語を読む学習活動を行えば、物語の中の大変な言葉や文を書き抜き、自分の考えをまとめる力を育てることができるであろう。

2 検証の視点と方法

検証の視点と方法を表3に示す。

表3 検証の視点と方法

検証の視点	方法
○大変な言葉や文を書き抜き、自分の考えをまとめる力が高まったか。	プレテスト ポストテスト
○「思考マップ」を組み合わせて物語を読む活動は、物語の中の大変な言葉や文を書き抜いて、自分の考えをまとめる力を育てることに有効であったか。	思考マップ 事前アンケート 事後アンケート

IV 研究授業について

1 研究授業の概要

- 期 間 平成26年12月8日～平成26年12月17日
- 対 象 所属校第2学年（2学級50人）
- 単元名 むかし話を楽しんで読もう
～むかし話のすきなところをゆめキラカードで とどけよう！～
- 教材文 「かさこじぞう」 岩崎京子（新しい国語二下 東京書籍 平成26年）

○ 目 標

物語の中の大変な言葉や文を書き抜き、好きなところや心が動いたことについて、自分の考えをまとめることができる。

2 指導計画（全11時間）

次	時	主な学習活動	いろいろな昔話を読み、紹介する昔話を選ぶ。 (並行読書)
一	1	・1年生からの手紙を読み、昔話を読んで夢キラカードを書くという見通しをもつ。	
	2	・「かさこじぞう」の全文を読み、昔話のあらすじを捉え、七場面に分ける。	
二	3	・お話を大きく変化しているところについて考え、「場面の読みマップ」で二場面と六場面の様子を比較し、場面の変化を捉える。	
	4	・「登場人物の読みマップ」でじいさまとばあさまの関係を読み取る。	
	5	・じいさまとばあさまの状況が大きく変化した理由を考える。	
	6	・「自分の読みマップ」に、「かさこじぞう」に対する自分の考えをまとめる。	
	7	・「かさこじぞう」の好きなところを「夢キラカード」に書き、紹介し合う。	
	8	・自分が選んだ昔話について、思考マップを用いて読み、自分の考えをまとめる。	
	9	・	
三	10	・	
	11	・「夢キラカード」に書き、交流する。	

V 研究授業の結果分析と考察

1 大変な言葉や文を書き抜き、自分の考えをまとめる力が高まったか

(1) 場面や登場人物を把握する上で大変な言葉や文を書き抜く力が高まったか

ア プレテスト・ポストテストの結果より

物語「スイミー」「ザーザー」を用いて「場面・登場人物を把握する上で大変になる言葉や文」をそれぞれ見付ける問題を設定したプレテスト・ポストテストを行った。プレテストにおいて、C評価となった児童の解答を見ると、場面を把握する上で大変になる言葉や文と登場人物を把握する上で大変になる言葉や文を混同しているものが多く見られた。また、登場人物の名前を答えている児童もあり、間われていることが理解できていないという課題も見られた。ポストテストでは、場面を把握する上で大変になる言葉や文と登場人物を把握する上で大変になる言葉や文を的確に捉えている児童が増えた。授業の中で、場面の様子、登場人物の行動を表す言葉や文を書き抜く視点を示して書き抜かせたことで、大変な言葉や文を理解し、書き抜く力が高まったと考える。

表4 「場面や登場人物を把握する上で大事な言葉や文を書き抜く力」を検証する判断基準

段階	判断基準
A	場面の様子を表す言葉や文、登場人物の行動を表す言葉や文を混同せず見付けている。(8割以上)
B	場面の様子を表す言葉や文、登場人物の行動を表す言葉や文をあまり混同せず見付けている。(8割未満)
C	場面の様子を表す言葉や文、登場人物の行動を表す言葉や文を混同している。または見付けていない。

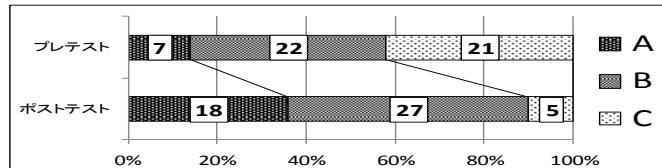


図6 「場面や登場人物を把握する上で大事な言葉や文を書き抜く力」についてのプレ・ポストテストの結果

イ 事前・事後アンケートの結果より

表5及び表6は「物語を読んで、場面の様子を表す言葉や文を見付けることができる」「物語を読んで、登場人物の行動を表す言葉や文を見付けることができる」に対する児童の意識の変容を表している。

表5 「物語を読んで、場面の様子を表す言葉や文を見付けることができる」に対する児童の意識

事後 事前	よく 当てはまる	やや 当てはまる	あまり 当てはまらない	全く 当てはまらない	計(人)
よく 当てはまる	14	3	0	0	17
やや 当てはまる	15	10	0	0	25
あまり 当てはまらない	1	3	3	0	7
全く 当てはまらない	0	0	1	0	1
計(人)	30	16	4	0	50

表6 「物語を読んで、登場人物の行動を表す言葉や文を見付けることができる」に対する児童の意識

事後 事前	よく 当てはまる	やや 当てはまる	あまり 当てはまらない	全く 当てはまらない	計(人)
よく 当てはまる	19	4	0	0	23
やや 当てはまる	10	4	1	0	15
あまり 当てはまらない	2	7	2	0	11
全く 当てはまらない	1	0	0	0	1
計(人)	32	15	3	0	50

場面の様子、登場人物の行動とも、肯定的な回答が増えている。また、より肯定度が上がった児童が、場面の様子、登場人物の行動とも20人いることから、授業前よりも大事な言葉や文を書き抜くことに対する意識が高まった児童が増えたことが分かる。

授業の振り返りの記述に、「思考マップ」について「文章を抜き出して書くのと、思ったことを書く

のを分けてあるので、分かりやすかった。」というものがあった。まず言葉や文を書き抜くことで、どの言葉や文でどんなことを思ったのか考えることができたという感想であり、書き抜きと考えを区別して書くことの有効性を感じていることが分かる。

(2) 物語を読んで感じたことの根拠となる言葉や文を書き抜き、自分の考えをまとめる力が高まったか

プレテスト・ポストテストにおいて、「スイミー」「ザーザー」を読んで大事な言葉や文を書き抜き、自分の考えをまとめる問題を設定した。「物語を読んで感じたことの根拠となる言葉や文を書き抜き、自分の考えをまとめる力」について、表7の判断基準で分析し、その結果を図7に示す。

表7 「物語を読んで感じたことの根拠となる言葉や文を書き抜き、自分の考えをまとめる力」を検証する判断基準

段階	判断基準
A	①言葉や文を書き抜いている。 ②書き抜いた言葉や文から感じたことを書いている。 ③物語全体に関わる感想を書いている。
B	①言葉や文を書き抜いている。 ②書き抜いた言葉や文から感じたことを書いている。
C1	言葉や文を書き抜いているが、感じたこととの関連がない。
C2	言葉や文を書き抜いているが、感じたことが書かれていらない。
C3	感じたことは書かれているが、言葉や文が書き抜かれていない。
D	その他の解答

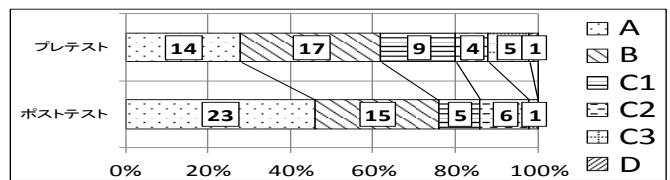


図7 物語を読んで感じたことの根拠となる言葉や文を書き抜き、自分の考えをまとめる力

プレテストでは、物語を読んで感じたことの根拠となる言葉や文を書き抜き、自分の考えをまとめることができた児童が62%であったのに対し、ポストテストでは76%に増えた。そのうちの31.6%の児童は、プレテストで書き抜きに課題があったり、考えが書けなかったりした児童であった。この結果から、物語の展開を捉えた上で自分の考えをもち、その根拠となる言葉や文を「自分の読みマップ」に書き抜いてまとめる活動により物語を読んで感じたことの根拠となる言葉や文を書き抜き、自分の考えをまとめる力が高まったと言える。しかし、C評価の児童が依然12人いた。内訳を見ると、書き抜いた言葉や文と自分の考えに関連がないもの、書き抜きのみで考えが書かれていないものがほとんどであった。こ

の12人の児童について、第三次で教材文以外の昔話を自力で読んで自分の考えをまとめた「夢キラカード」を見ると、11人の児童は、自分の考えの根拠となる言葉や文を書き抜いて、自分の考えをまとめることができていた。このことから、問い合わせの意味を十分理解できず、問題文「心が動いた言葉や文と感じたことを書きましょう。」から「心が動いた」と「感じたこと」それぞれの文を書き抜くことと捉え違えてしまい、問い合わせ方に問題があったとも考えられる。

2 「思考マップ」を組み合わせて物語を読む学習活動は有効であったか

(1) 授業の実際

本単元では、「場面の読みマップ」「登場人物読みマップⒶ（じいさまとばあさまの関係）」、Ⓑ（じいさまとじぞうさまの関係）」「自分の読みマップ」の4枚の「思考マップ」を組み合わせて物語を読む学習を行った。単元を貫く言語活動として、自分が好きな昔話を1年生に紹介するために、大好きなところや心が動いたことを「夢キラカード」にまとめる言語活動を設定した。図8は、児童Aの記述を例に、4枚の「思考マップ」を組み合わせて読む活動を図に表したものである。

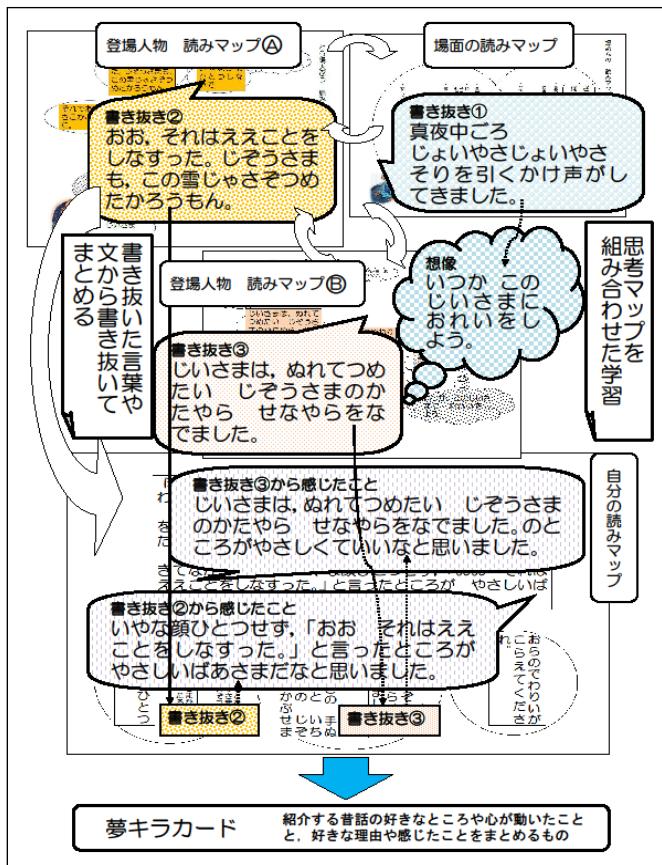


図8 「思考マップ」を組み合わせた学習の様子

まず、物語の展開を捉るために「場面の読みマップ」「登場人物読みマップⒶⒷ」を活用した。児童は3枚のマップを組み合わせることで、場面の様子に即して登場人物の心情を想像したり、登場人物の行動から関係や性格を捉えたりすることができた。

「場面の読みマップ」への書き抜き①が「登場人物読みマップⒷ」の「いつか、このじいさまにおれいをしよう。」というじぞうさまの心情の想像につながっている。「登場人物読みマップⒶ」では、書き抜き②（ばあさまの会話）などから想像する心情や感じたことを書き込み、じいさまとばあさまの優しい人柄や二人の生活の様子などを捉えた。さらに、「読みマップⒷ」では、書き抜き③（じいさまのじぞうさまに対する行動）から想像したじいさまの心情や感じたことを書き込み、じいさまの人柄を捉えた。「登場人物読みマップⒶⒷ」を組み合わせることで、じいさまは、ばあさまだけでなく誰に対しても優しく接する人物であることに気付くことができた。

次に、物語に対する自分の考えをまとめるために「場面の読みマップ」「登場人物読みマップⒶⒷ」「自分の読みマップ」を組み合わせる学習を行った。児童Aは、「登場人物読みマップⒶⒷ」を見直し、書き抜き②③を書き抜いた。その書き抜きから感じたことを「じいさまは、ぬれてつめたいじぞうさまのかたやらせなやらをなでました。のところがやさしくていいなと思いました。」と表し、感じたことを基に「かさこじぞうは、やさしくてちょっとかわいそうなお話だと思いました。」という自分の考えをまとめることができた。図9は「自分の読みマップ」と、それまでの3枚の「思考マップ」との組み合わせの状況について分析したものである。

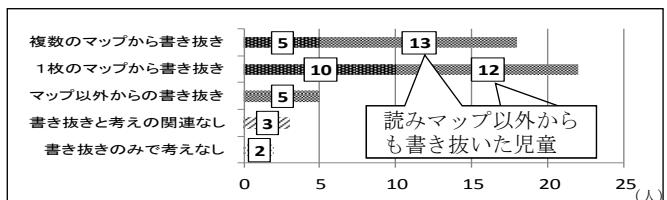


図9 「思考マップ」を組み合わせた状況

「自分の読みマップ」に自分の考えをまとめることができた児童は45人であった。そのうち、「場面の読みマップ」「登場人物読みマップⒶⒷ」から書き抜いてまとめることができた児童は40人、さらに、そのうちの25人が読みマップ以外からも書き抜いている。これらの児童は読みマップを組み合わせて物

語の展開を捉えることで、自分の考えに関連する他の叙述にも気付いていた。また、読みマップ以外からのみ書き抜いた児童5人も、それまでの読みマップへの書き抜きを見直した上で、物語を読んで感じたことの根拠となる言葉や文を再確認して書き抜くことができた。その結果、物語を読んで感じたことの根拠となる言葉や文を明らかにして自分の考えを夢キラカードにまとめることができた。ポストテストの結果も5人中4人がA評価に変わった。授業の中で、「思考マップ」を組み合わせて場面の様子や登場人物の行動を表す言葉や文を書き抜いたり、感じたことの根拠となる大事な言葉や文を考えたりする活動を行った結果、目的に応じた大事な言葉や文を見付けることができるようになったと考える。自分の考えをまとめることについても、感想のみでなく、自分の考えの理由や根拠となる言葉や文とともに考えをまとめができるようになった。

これらのことから「思考マップ」を組み合わせて物語を読む活動は有効であったといえる。

(2) 事後アンケートによる分析

事後アンケートで、「場面の様子や登場人物の行動を表す言葉や文を見付けること」また「自分の考えをまとめること」に「思考マップ」は役に立ったかについて、意識調査を行った。このアンケートに、96%以上の児童が肯定的に回答している。

この結果から、物語を読んで場面の様子や登場人物の行動を表す言葉や文を見付けることや、物語の好きなところを見付けたり心が動いたことについて自分の言葉で表したりすることのために、「思考マップ」は役に立ったと感じていることが分かる。また、「思考マップ」を使って学習したことに対するアンケートの記述に「他の物語でも使って読んでみたい。」というものが多く見られた。この記述からも、「思考マップ」を組み合わせて物語を読むことに対する意識・意欲が高まったといえる。

- 読みマップは、今までに勉強したことを思い出すのとても便利でした。文章から登場人物の思いをもこもこに書くのは、少しむずかしかったけど、いろんな方法を使って考えられることが便利でした。
- 読みマップはいろんなことがよく見付けられるマップでした。じいさまとばあさまの気持ちやじぞうさまの気持ちがよく分かるマップでした。他の物語でもいっぱい使って、がんばってみたいです。

児童の振り返りの記述

以上、(1)(2)から、「思考マップ」を組み合わせて物語を読む学習活動は、物語の中の大事な

言葉や文を書き抜き、自分の考えをまとめる力の育成に有効であったといえる。

VI 研究のまとめ

1 研究の成果

文学的な文章の学習指導において、「思考マップ」を組み合わせて物語を読む学習活動を取り入れることは、物語の中の大事な言葉や文を書き抜き、自分の考えをまとめる力を育てることに有効であることが明らかになった。

2 今後の課題

- 物語に対してもった自分の考えと、根拠となる言葉や文のつながりが不明確な児童が数名いる。自分がどんな言葉や文に着目して考えをもったのか、自分の考えと叙述の関連付けを意識させる指導を工夫する必要がある。
- 学年や教材に応じた「思考マップ」の種類や使い方について、さらに開発していく。また、各学年に応じた思考スキルの定着を図っていく。

【注】

- (1) 菅原通晴（平成26年）：『広島県立教育センター平成26年度前期教員長期研修論文』p. 40に詳しい。

【引用文献】

- 1) 文部科学省（平成20年）：『小学校学習指導要領解説国語編』東洋館出版社 p. 40
- 2) 文部科学省（平成20年）：前掲書 p. 40
- 3) 田近洵一（1993）：『読み手を育てる 読者論から読書行為論へ』明治図書 p. 31
- 4) 水戸部修治（2012）：『教科調査官が語る これからの授業 小学校』図書文化 p. 8
- 5) 文部科学省（平成20年）：前掲書 p. 40
- 6) 水戸部修治（2013）：「読解活動→受け身習慣から脱出する指導」『国語教育 10月号』明治図書 p. 6
- 7) 文部科学省（平成20年）：前掲書 p. 40
- 8) 水戸部修治（2011）：『国語授業の新常識「読むこと」低学年編』明治図書 p. 18

【参考文献】

- 関西大学初等部（2012）：『関西大初等部式 思考力育成法 めざせ！考える達人』さくら社
角屋重樹（2013）：『なぜ、理科を教えるのか 理科教育がわかる教科書』文溪堂
水戸部修治（2012）：『国語 教科調査官が求める授業』『教科調査官が語る これからの授業』図書文化